

令和2年5月22日

新庄北高等学校最上校  
生徒 保護者の皆さんへ

校長 柿崎則夫

### コロナウイルス感染防止対策と学校の再開について

来週5月25日から、コロナウイルス感染防止対策を十分に行ったうえで、通常の授業が再開することになりました。昨年度3月からの学校休業以来、休業は3か月近くにも及び、生徒・保護者の皆さんには、不安な日々をすごされたことと思います。この間、インターハイや吹奏楽コンクールなどが中止となり、地区大会や県大会も開催できませんでした。一昨日には甲子園大会も中止が決定され、特に高校3年生の諸君の心情を思うと、大変悲しく、慰めの言葉も見つからないぐらいです。

学校の授業は再開となりますが、コロナ時代を踏まえた「新しい生活様式」により感染防止に立ち向かうことが求められています。このため、学校の活動も様々な制限を受けることとなり学校行事や部活動、授業内容の見直しをしなければなりません。また、休業で遅れた学習の回復のために、長期休業の短縮といった対応をとる必要が出てきます。

全国的に、感染防止対策がいつまで、また、どのレベルで求められていくのかも、今のところ分かっていません。夏休み明けに通常の学校生活が可能になるのかどうかについても現段階では何とも言えない状況にあります。新庄まつりはじめ各地の夏祭りやイベントが中止になっていることなどを考えると、夏休み明けぐらいまでは自粛を中心とした活動の中止等が求められていくのではないかと考えています。

今後については、未確定のことも多いのですが、この度、通常授業での学校再開を受け、現状において、本校においては、以下の方針で今後の対応を検討することにいたしました。

- ① 生徒、教職員の感染防止については、「新しい生活様式」に基づく県教委の指導を踏まえ、適切な対応を図るとともに、生徒の感染症対策スキルや意識の向上を指導する。
- ② 教育課程内による授業については、長期休業の短縮などにより、休業で減少した年間授業時数を回復する。
- ③ 学校行事については、1学期中に開催予定であった運動会は中止とするが、内容を検討したうえで、2学期中での行事展開を考慮する。

- ④ 特に3年生の部活動については、部員の心情を考慮しながら、引退・引継の場の設定に配慮する。
  - ⑤ 2学期以降に計画されている行事、事業等については、基本的には実施の方向で対応するが、修学旅行については現在対応について検討している。  
(感染の状況によっては、見直しや中止の可能性もありうる)
  - ⑥ 第二、第三波の感染拡大による休業の可能性も考慮し、リモート授業などの対応について検討、整備する。
  - ⑦ 自主学習の機会が増えることも考えられることから、それらを支援するための教材の在り方や教員のかかわり方について、ICT、ネットなどの有効活用も含め対応を検討する。
  - ⑧ 一連のコロナ感染拡大により、心理的、経済的に影響を受けた生徒がいることを考慮し、相談体制等の充実を図る。
  - ⑨ 特に3年生の進路については、情報を注意深く観察し、情報収集や提供、進路対応学習の充実、回復に努める。
- (特に②④については、通常授業再開後できるだけ早く計画を提示することとします。)

今回の新型コロナ対策による事態は、まさに未曾有のことです。「ポストコロナ」といわれる時代がどのような時代になっていくのか、より長いスパンで将来を考えていくことが、若い生徒諸君には必要になってくるものだろうと思っています。このウイルスとの付き合いが、どれだけ続くのか、日本だけの問題ではなく、世界的な規模で考えなければならないことでもあります。

このコロナウイルスの対応で、今まであまり考えることのなかったことに様々な思いが生じるようになりました。医療や物流を支えている多くの人々の尊い取組みがあります。感染拡大を防ぐため、自粛要請に応じて不自由な生活に耐えた人たちがいます。反面、自分の欲望を抑えられず、その行動が非難された人がいることも事実です。さらに、「自粛警察」などといわれ、極端に人々の生活を監視し非難するという人々も出現しました。感染者や医療従事者のご家族がいわれのない差別を受けているということも多く耳にすることになりました。

奇しくもこの3か月余り、私たちは、人間のすばらしさと弱さという両面を見ることになりました。先行きが不安な世の中だからこそ、私たちは自信と勇気をもって、この事態に立ち向かっていくことが求められていると思います。

高校生としてこの時期、何を考え、何を思い、何を学んでいけばいいのか。何気ない日常や、登校して学んだり高校生として活動できたりすることが当たり前ではなかったんだ、そんな思いをもって学校再開を迎えて欲しいと思います。